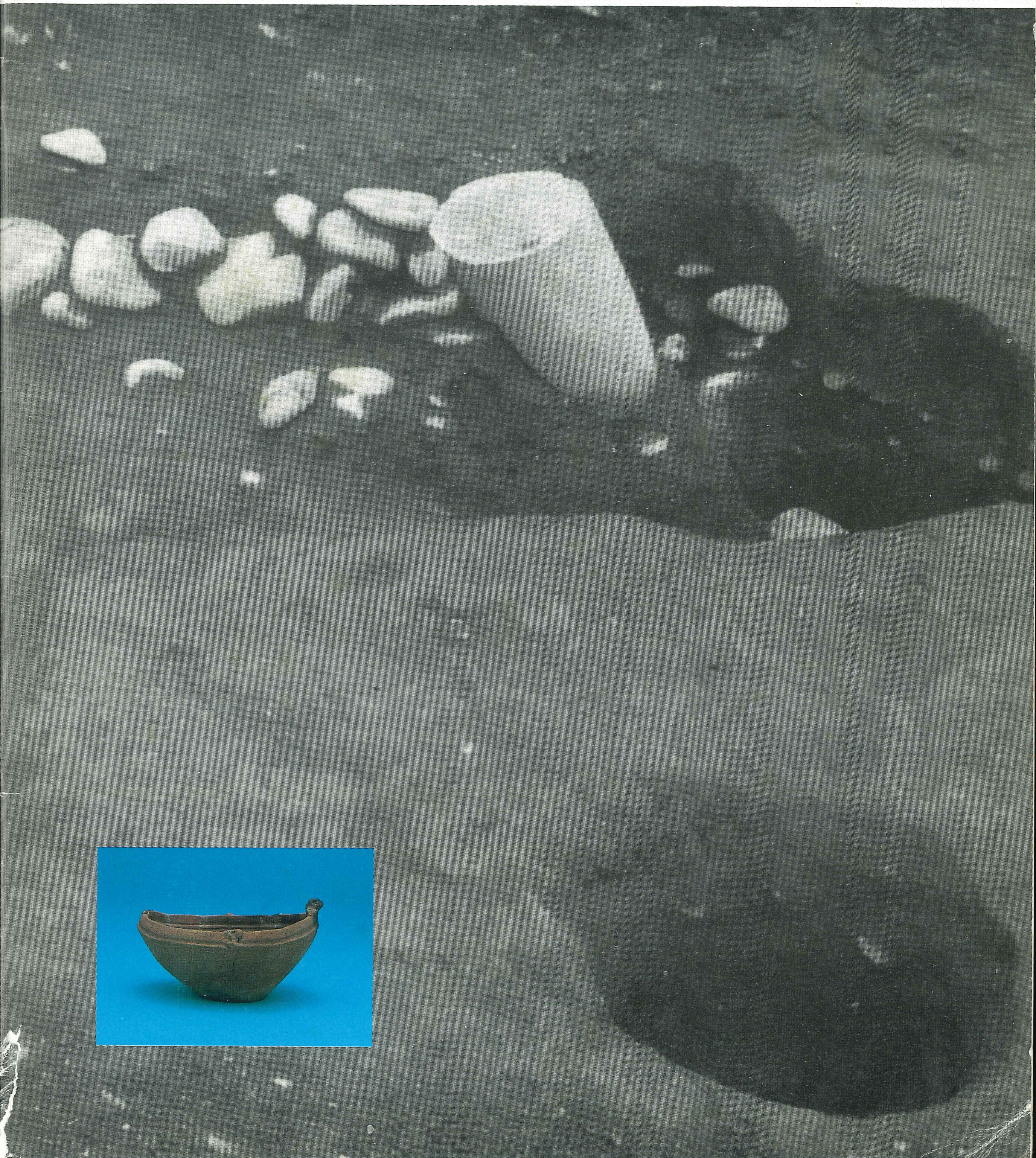
# 土器が語る縄文時代の湘南



## 開催にあたって

土器がなく、石器だけ使用していた時代を旧石器時代といいますが、昔は日本に旧石器時代はないといわれていました。それが一ヶ所旧石器の遺跡が発見されますと、ここにも、あそこにも、といったぐあいに、各地で旧石器の遺跡が発見されつづけています。

はじめて土器が焼かれ、それが使用されるようになった時代を、新石器時代、または縄文時代といいますが、それでは縄文時代には人間生活のすべてがわかるようになったのかといいますと、とんでもない、わからないことだらけです。今でも猿は群（むれ）の生活をしていますが、人間もはじめは恐らく猿の群と同じような生活をしていたのでしょう。それが、いつごろどんな理由で現在の人間生活のように変ったのか、まことに興味ある問題ですが、いまだにはっきりわかりません。

今回は、それぞれ関係の教育委員会や博物館・資料館・遺跡調査会などのご協力を得て、大磯から藤沢までの縄文遺跡と縄文土器の企画展示をおこなうことにしました。各地遺跡の写真や各種の縄文土器をご覧になって、あれやこれやと、色々と当時の生活を考えてみて下さい。

館　長　　鈴　木　　昇

## Ⅰ湘南の縄文遺跡

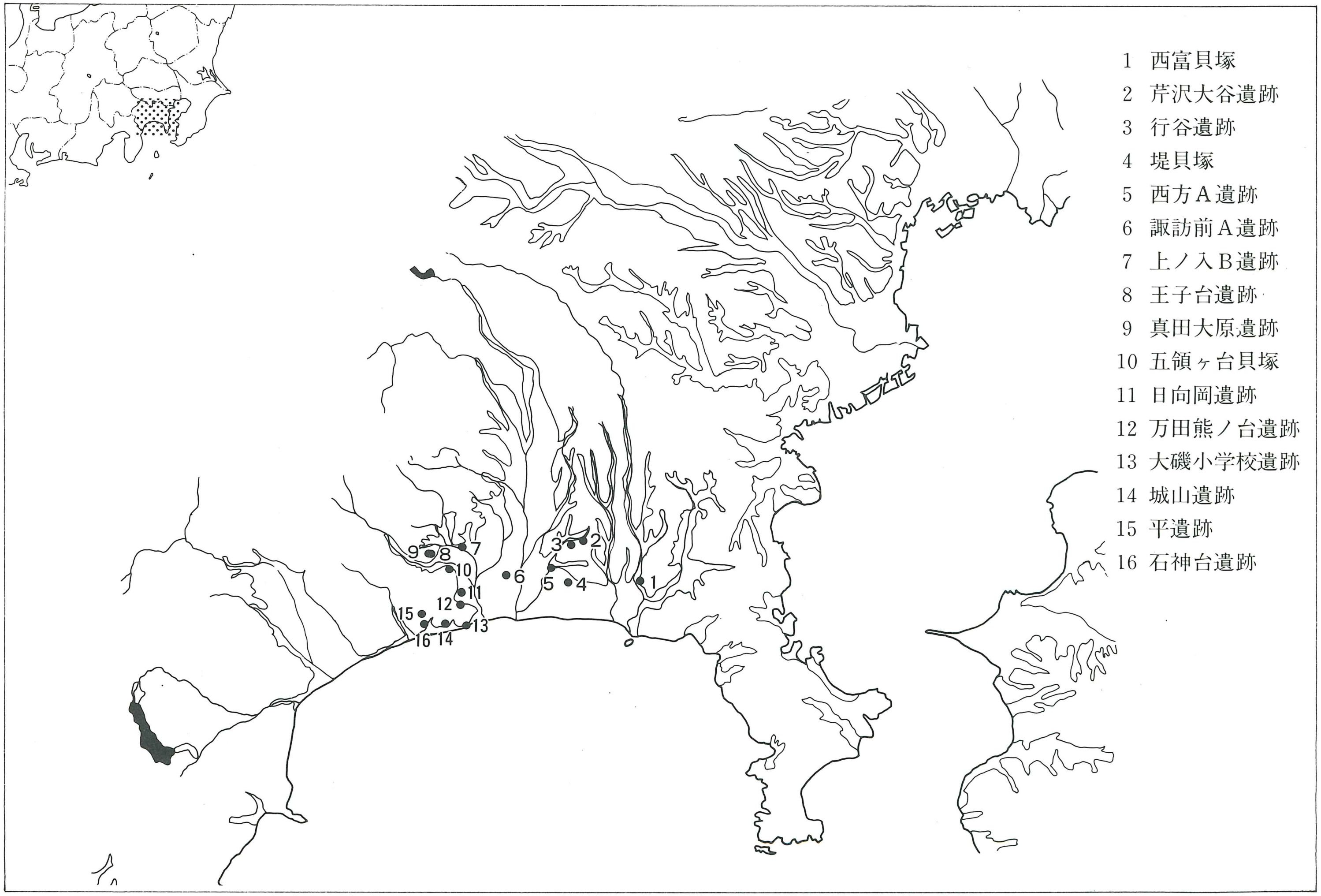
神奈川県には6752ヶ所もの埋蔵文化財の包蔵地が確認されている。このうちの約45％に当たる3039遺跡は縄文時代の遺跡で、この中には貝塚が 113遺跡含まれている。県内では、寒川町、開成町の２町で縄文時代の遺跡が確認されていないが、最近寒川町では大規模な縄文集落が発見されており、遺跡数は年々増加する傾向にある。

湘南として対象とした地域は、現在の行政区画上、平塚市、茅ヶ崎市、藤沢市、大磯町の３市１町で、遺跡の総数は 884遺跡、このうち縄文時代の遺跡は 215遺跡を数え、全体の24％に及んでいる。貝塚は11遺跡と少なく、平塚市万田貝殻坂貝塚を境に西側では皆無である。

時期別では、早期～晩期まで確認されているものの、中期～後期にかけての遺跡が圧倒的多数を占めている。国指定史跡で五領ヶ台式土器の標式遺跡でもある五領ヶ台貝塚をはじめ、配石遺構＝墓地説を有力にした石神台遺跡、めずらしい縄文前期の西方貝塚など学史に残る遺跡も多く存在している。

## Ⅱ遺跡と立地

縄文時代の遺跡は、時期により立地が異なる場合が多い。それはとりもなおさず縄文人を取り巻く自然環境の変化としてとらえることができる。湘南地域では早期～中期の遺跡は丘陵上に多く存在する。しかし、中期の遺跡の中にはそれより一段下の沖積段丘上でも確認されており、さらに低い砂丘砂上部（標高7.5m）での検出例（平塚市諏訪前Ａ遺跡）や砂層出土例（大磯町大磯小学校遺跡、城山遺跡）もあり、かなり広範囲な活動をしていたことが確認されている。また、こうした事実が中期という縄文時代の中でも最も遺跡の数が増加する時期と重なる点も興味深い。後期になると全般的に沖積地への進出が目立つが、貝塚を形成する例（茅ヶ崎市堤貝塚、藤沢市西富貝塚）やそうでない例（平塚市王子台遺跡、大磯町石神台遺跡）など地域や遺跡の性格により立地が異なる場合が見られる。特に後者は配石遺構が発見される場合が多い。

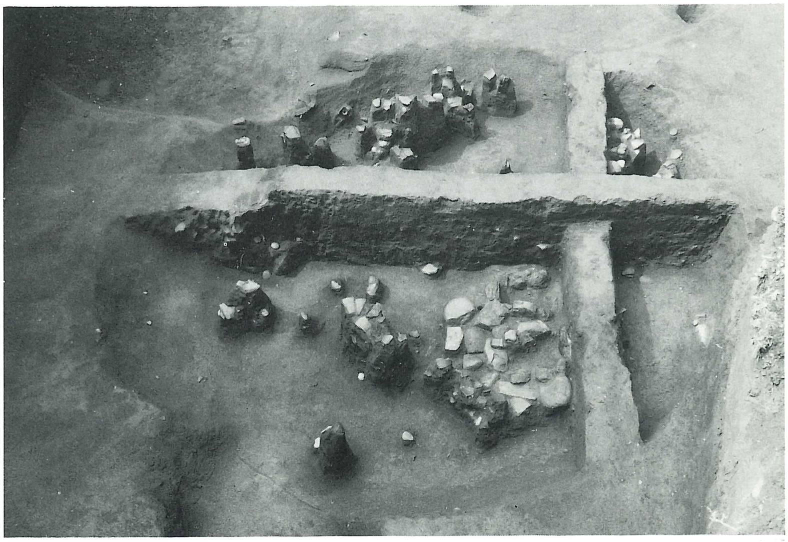



湘南における縄文遺跡の分布

## 石神台遺跡
配石遺構

大磯町西部の標高約80mの通称石神台と呼ばれる台地上に立地し、過去３回発掘調査が実施されている。その結果、縄文後期の配石遺構とそれに伴う土壙墓（人骨・副葬品としての土器が出土した墓壙もある)、土器廃棄場（多数の獣骨が出土)、竪穴住居址などが発見され、集落としての機能が台地全体に及んでいることが確認された。土器としては中期勝坂式から後期安行式までの資料がみられるが、中心は加曽利Ｂ式で、とくに後半の資料と後続型式の曽谷式に類似する資料がまとまって出土している。

## 城山遺跡
竪穴住居址



大磯町西小磯字城山に所在する集落址で、標高16～18mの沖積段丘上に立地する。1977年、東海道線複々線化に伴う調査を皮切りに過去数回発掘調査が行われている。

特に、郷土資料館建設に伴う調査では、縄文後期の住居址の下部より同中期の住居址が発見されている。しかもそれは砂層上部に構築されていた。また、勝坂～曽利式土器は砂層より出土し、堀ノ内～加曽利Ｂ式はそれより上層の黒色土層中に包含されていて、中期と後期の土器が層位を異に出土している。

**五領ヶ台貝塚**
**現　況**

平塚市金目旧字広川に所在する縄文中期の貝塚で、南北に張りだした舌状台地上に東西２ヶ所に貝層の分布が確認されている。「五領ヶ台式」土器の標式遺跡として、また相模川以西唯一の貝塚として貴重で、現在国指定史跡となっている。

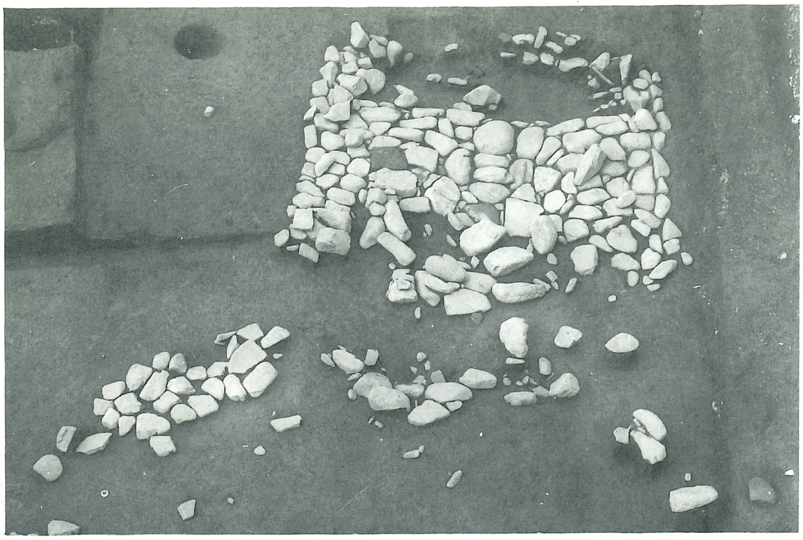
貝類はダンベイキシャゴが中心で、動物遺体はイルカ、クジラ、シカ、イノシシなど合計17科21属21種検出されている。中でも、ハシボソカラス、アシカ、ヤマカガシなど他の貝塚ではあまり例がない資料も出土しており、縄文人の食生活の広さを物語っている。

**上ノ入Ｂ遺跡**
**堅穴住居址群**

平塚市岡崎字上ノ入の舌状台地に所属する縄文～歴史時代に至る複合遺跡。

縄文中期の住居址からは炭化したクルミ、キツネノカミソリなどが出土している。同後期の敷石住居址や円形、方形の配石遺構も検出されている。土器は勝坂～加曽利Ｂ式まで断続的に見られるが、中心は加曽利Ｅ式及び曽利式であり、湘南地域の該期の研究に欠くことのできない資料が多い。器種では、有孔鍔付土器や器台など出土例が少ないものが見られることも一つの特徴である。

## 王子台遺跡
柄鏡形敷石住居

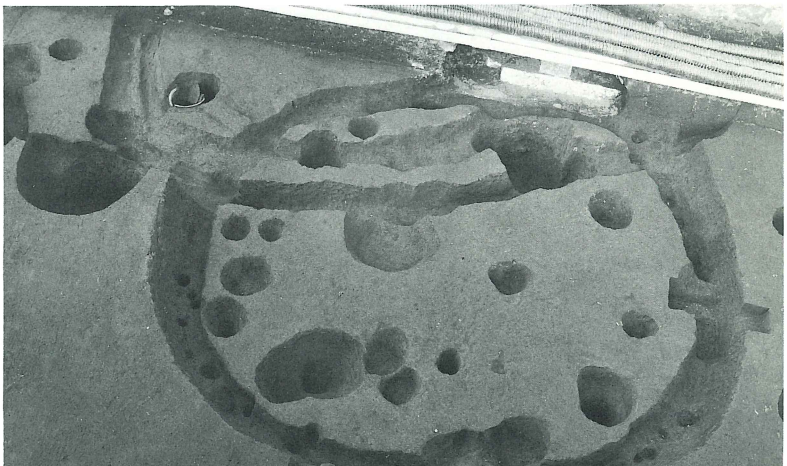


平塚市北金目字王子台、東海大学湘南校舎の敷地内に所在する縄文～近世に至る複合遺跡。

標高約45m、金目川と大根川に挟まれた台地上に占地している。弥生時代中期須和田式の住居址の発見で一躍脚光を浴びたが、縄文後期の住居址や配石遺構も検出されている。

土器では、勝坂～加曽利Ｂ式まで幅広く見られるが、中でも中期加曽利Ｅ式の良好な資料が多く存在する。また、後期の土器も復元可能なものが多く、特に加曽利Ｂ式の注口土器の資料が量的に多い点が注目に値する。

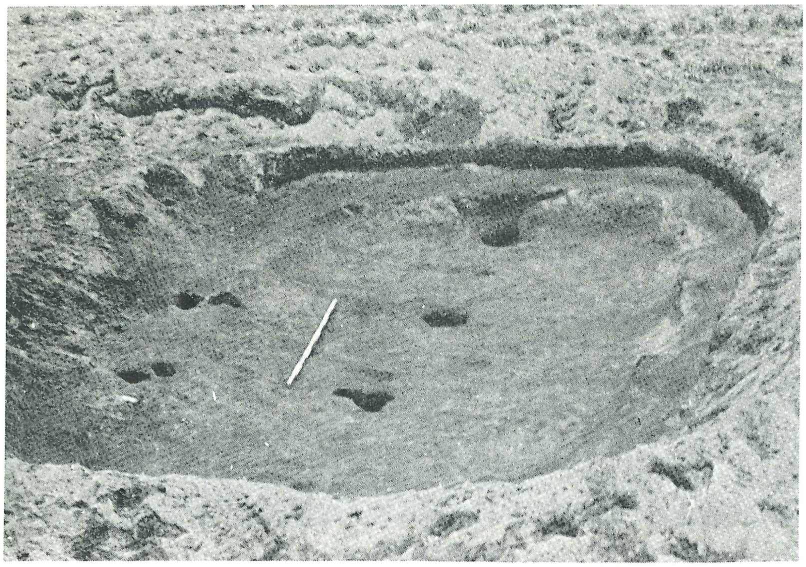
## 真田大原遺跡
竪穴住居址



平塚市真田に所在し、標高52mの北金目台地の南東部に位置する縄文および歴史時代の遺跡で、王子台遺跡の近くに存在する。

過去道路改良工事など数度の発掘調査により縄文中期の住居址や配石遺構、集石土壙が検出されている。

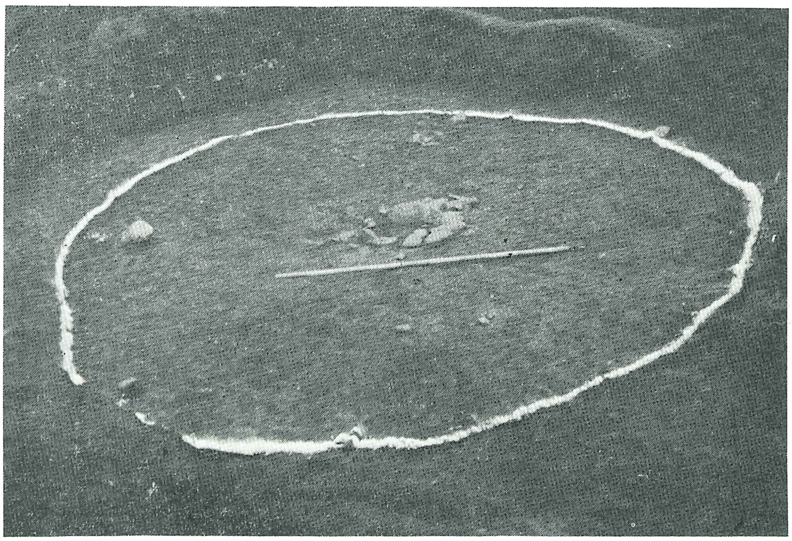
土器は王子台遺跡と大差ないが、中心となるのは中期中葉で一段階古い資料が充実している。特に、県西方面では比較的少ない加曽利Ｅ式の資料が多くあり、当地における曽利式の在り方を考える上には欠くことのできないものと言える。



**堤貝塚**
竪穴住居址
(『神奈川県史』より)

茅ヶ崎市字堤に所在する縄文後期の貝塚を伴う集落址で、東西2ヶ所に貝塚が存在している。土器は堀ノ内Ⅰ・Ⅱ式が中心で加曽利Ｂ式が伴なう。発見された竪穴住居址も堀ノ内Ⅱ式期のものである。貝類はダンベイキシャゴが90%以上を占めていて、遺跡付近に鹹度の高い水域が存在したことを物語っている。また、魚骨も多く検出されていて、中でもマダイの顎骨が多量に見られたことと海洋魚のカツオの脊椎骨が残っていた点が注目される。

**西富貝塚**
竪穴住居址
(『藤沢市史』より)



藤沢市西富の清浄光寺（通称遊行寺）背後の台地上に所在する貝塚を伴う縄文後期の集落址で、堤貝塚とともに湘南地域の縄文時代の研究には欠かせない遺跡である。

土器は堀ノ内Ⅱ～加曽利Ｂ式を多く出す。竪穴住居址の他、配石遺構、敷石住居などが検出されている。

自然遺物は44科26属58種確認されている。貝類では、ダンベイキシャゴが主体をなし、哺乳類ではイノシシ、ニホンジカが多く見られる。

また、魚類の中にサバフグが見られる点は、注目に値すると思われる。

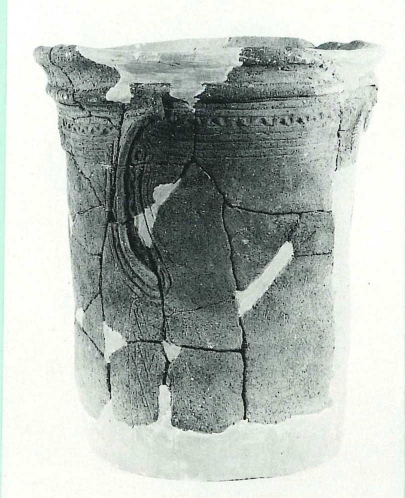
1 深鉢 西方A遺跡
黒浜式（34.5cm）

2 深鉢 五領ヶ台貝塚
五領ヶ台Ⅱ式（22.0cm）

3 深鉢 五領ヶ台貝塚
五領ヶ台Ⅰ式（20.0cm）

4 深鉢 五領ヶ台貝塚
五領ヶ台Ⅱ式（31.5cm）

5 深鉢 五領ヶ台貝塚
五領ヶ台Ⅱ式（25.0cm）



6 深鉢 万田熊ノ台遺跡
五領ヶ台Ⅱ式（31.5cm）

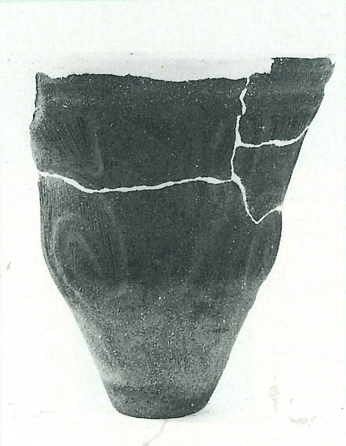
7 深鉢 諏訪前A遺跡
勝坂Ⅱ式（29.5cm）

8 深鉢 王子台遺跡（伝）
勝坂Ⅲ式（56.0cm）

9 深鉢 王子台遺跡（伝）
勝坂Ⅲ式22.8cm）

10 深鉢 芹沢大谷遺跡
勝坂Ⅲ式（27.5cm）

11 深鉢 城山遺跡
勝坂Ⅱ式（44.0cm）

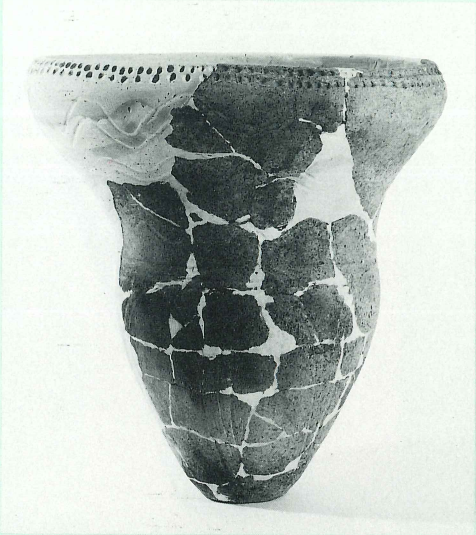


12 深鉢 上ノ入B遺跡
曽利Ⅳ式（29.7cm）

13 深鉢 上ノ入Ｂ遺跡
曽利Ⅲ式（32.0cm）

14 深鉢 上ノ入Ｂ遺跡
加曽利ＥⅡ式（24.0cm）

15 深鉢 上ノ入Ｂ遺跡
曽利Ⅱ式（29.5cm）



16 深鉢 上ノ入Ｂ遺跡
加曽利ＥⅢ式（37.5cm）

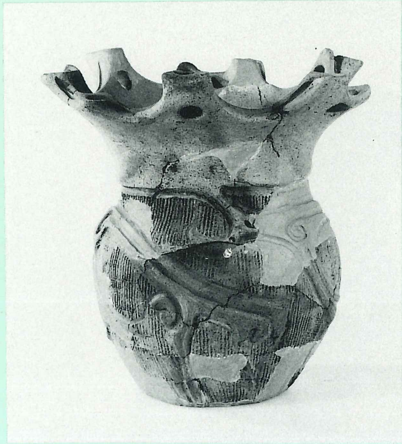
17 深鉢 上ノ入Ｂ遺跡
曽利Ⅱ式（24.5cm）

18 深鉢 上ノ入Ｂ.遺跡
曽利Ⅱ式（27.0cm）

19 深鉢 真田大原遺跡
曽利Ⅱ式（37.0cm）

20 深鉢 真田大原遺跡
加曽利EⅢ式（36.5cm）

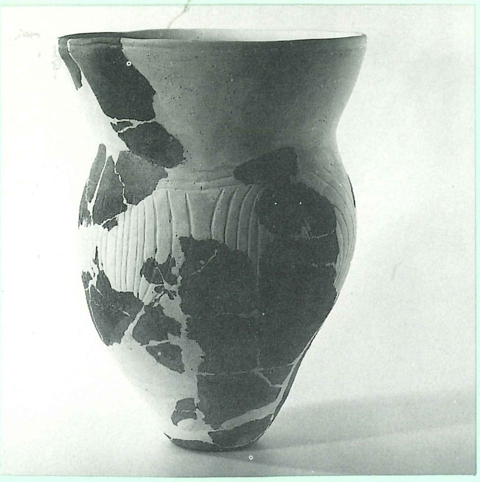
21 深鉢 王子台遺跡
加曽利EⅥ式（39.0cm）



22 深鉢 真田大原遺跡
加曽利EⅢ式（25.0cm）

23 深鉢 真田大原遺跡
曽利Ⅱ式（21.3cm）

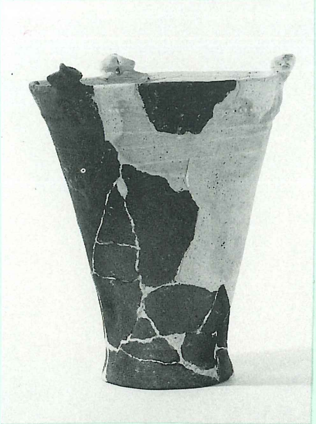
24 深鉢 平遺跡
曽利Ⅰ式（36.0cm）



25 深鉢 上ノ入Ｂ遺跡
堀ノ内Ｉ式（50.0cm）

26 深鉢 上ノ入Ｂ遺跡
加曽利ＢＩ式（30.0cm）

27 深鉢 上ノ入Ｂ遺跡
堀ノ内Ｉ式（30.0cm）

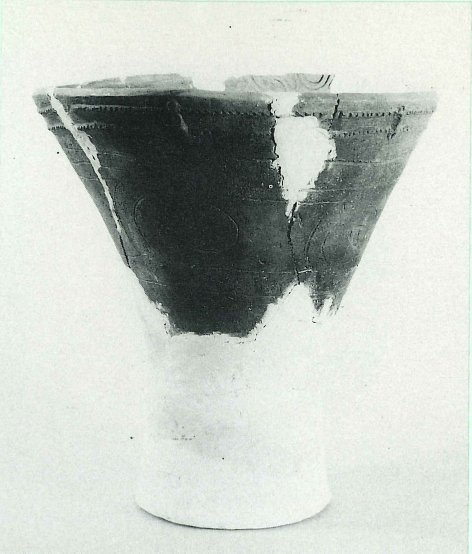


28 深鉢 上ノ入Ｂ遺跡
加曽利ＢＩ式（19.5cm）

29 深鉢 堤貝塚
堀ノ内Ｉ式（43.0cm）

30 深鉢 堤貝塚
堀ノ内Ｉ式（22.0cm）

31 深鉢 堤貝塚
堀ノ内Ⅰ式（25.5cm）



32 深鉢 堤貝塚
加曽利ＢⅠ式（34.0cm）

33 深鉢 行谷遺跡
加曽利ＢⅠ式（22.5cm）

34 深鉢 行谷遺跡
堀ノ内Ⅱ式（19.0cm）

35 深鉢 行谷遺跡
堀ノ内Ⅰ式（20.5cm）

36 深鉢 行谷遺跡
堀ノ内Ⅰ式（18.0cm）

37 深鉢 行谷遺跡
加曽利ＢⅠ式（24.0cm）

38 深鉢 行谷遺跡
加曽利ＢⅠ式（35.8cm）

39 深鉢 行谷遺跡
堀ノ内Ⅰ式（24.2cm）

40 深鉢 西富貝塚
堀ノ内Ⅱ式（18.1cm）

41 深鉢 西富貝塚
加曽利ＢⅠ式（24.5cm）

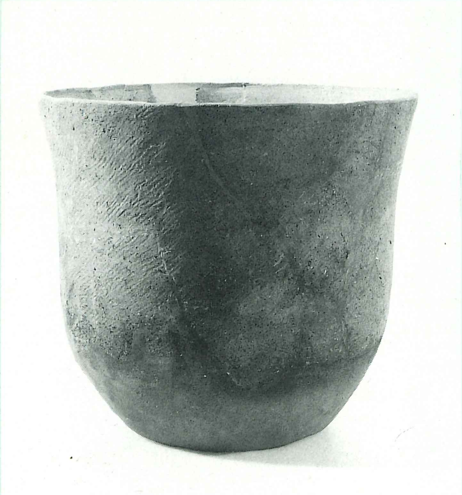
42 深鉢 西富貝塚
加曽利ＢⅠ式（28.7cm）

43 深鉢 西富貝塚
加曽利ＢⅠ式（34.0cm）

44 鉢形 西富貝塚
堀ノ内Ⅱ式（20.0cm）

45 深鉢 西富貝塚
加曽利ＢⅠ式（24.0cm）

46 深鉢 西富貝塚
加曽利ＢⅠ式（19.6cm）



47 深鉢 西富貝塚
加曽利ＢⅠ式（32.5cm）

48 深鉢 石神台遺跡
曽谷式（21.0cm）

49 深鉢 石神台遺跡
加曽利ＢⅡ式（28.0cm）

50 深鉢 石神台遺跡
加曽利Ｂ Ⅱ式（30.5cm）

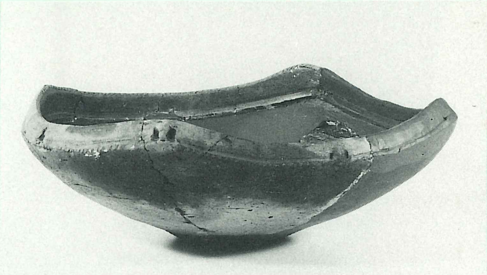
51 深鉢 石神台遺跡
加曽利ＢⅡ式（28.5cm）

52 深鉢 大磯小学校遺跡
加曽利ＢⅠ式（37.5cm）

53 浅鉢 五領ヶ台貝塚
五領ヶ台Ⅱ式（12.0cm）

54 浅鉢 上ノ入Ｂ遺跡
曽利Ⅲ式（23.5cm）

55 浅鉢 王子台遺跡
加曽利ＢⅠ式（20.4cm）



56 浅鉢 王子台遺跡
加曽利ＢⅡ式（13.5cm）

57 浅鉢 王子台遺跡
加曽利ＢⅡ式（11.5cm）

58 浅鉢 西富貝塚
加曽利ＢⅠ式（11.9cm）

59 浅鉢 堤貝塚
堀ノ内Ⅱ式（16.0cm）

60 鉢 西富貝塚
加曽利ＢⅠ式（16.2cm）

61 鉢 西富貝塚
堀ノ内Ⅱ式（21.7cm）

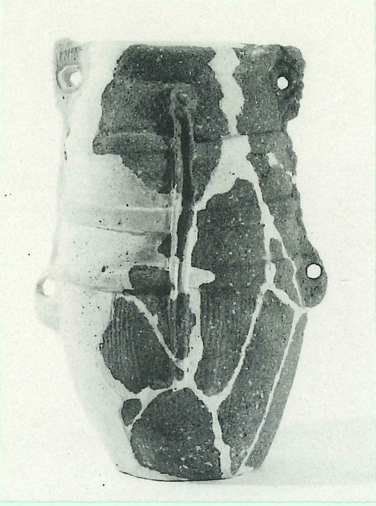
62 鉢　西富貝塚
堀ノ内Ⅱ式（21.4cm）

63 鉢 西富貝塚
堀ノ内Ⅱ式（13.6cm）

64 鉢 西富貝塚
堀ノ内Ⅱ式（17.0cm）

65 鉢 上ノ入B遺跡
安行Ⅲc式（23.0cm）

66 小型土器（深鉢）
五領ヶ台貝塚
勝坂Ⅱ式（13.5cm）



67 小型土器（深鉢）上ノ入Ｂ遺跡
勝坂Ⅲ式（21.0cm）

68 小型土器（深鉢）真田大原遺跡
加曽利ＥⅠ式（18.5cm）

69 小型土器（深鉢）
大磯小学校遺跡
中期（13.0cm）

70 小型土器（鉢）上ノ入Ｂ遺跡
加曽利ＢⅠ式（8.5cm）

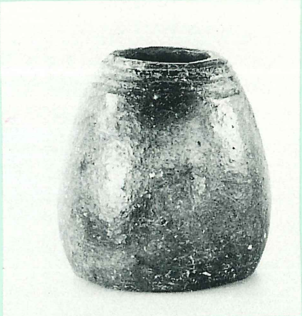
71 小型土器（鉢）王子台遺跡
加曽利ＢⅠ式（11.0cm）

72 小型土器（鉢）王子台遺跡
加曽利ＢⅠ式（6.5cm）

73 小型土器（鉢）王子台遺跡
加曽利ＢⅠ式（8.0cm）

74 小型土器（鉢）王子台遺跡
加曽利ＢⅠ式（7.2cm）

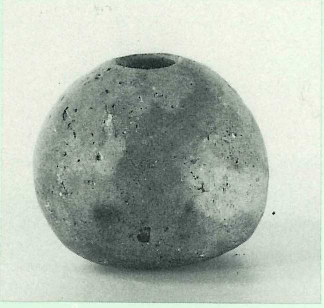
75 小型土器（深鉢）王子台遺跡
加曽利ＢⅠ式（14.5cm）



76 小型土器（壺）西富貝塚
加曽利ＢⅠ式（5.8cm）

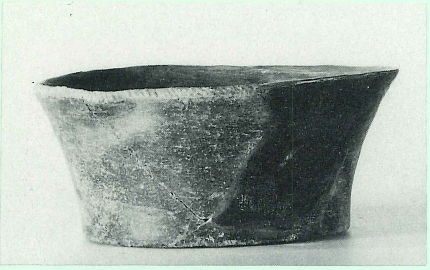
77 小型土器（埦）西富貝塚
加曽利ＢⅠ式（8.6cm）

78 小型土器（埦）堤貝塚
加曽利ＢⅠ式（6.7cm）



79 小型土器(壺)行谷遺跡
加曽利ＢⅠ式 (7.5cm)

80 小型土器(鉢)行谷遺跡
加曽利ＢⅠ式 (5.5cm)



81 小型土器(鉢)行谷遺跡
加曽利ＢⅠ式 (6.4cm)

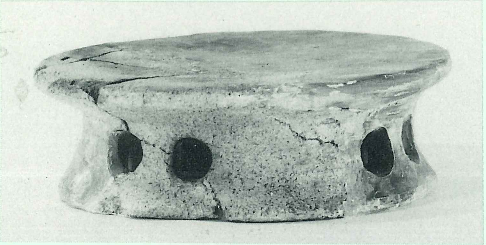
82 小型土器(鉢)石神台遺跡
加曽利ＢⅠ式 (9.5cm)

83 小型土器(鉢)石神台遺跡
加曽利ＢⅡ式 (8.0cm)

84 小型土器(深鉢)
石神台遺跡
加曽利ＢⅠ式 (17.5cm)

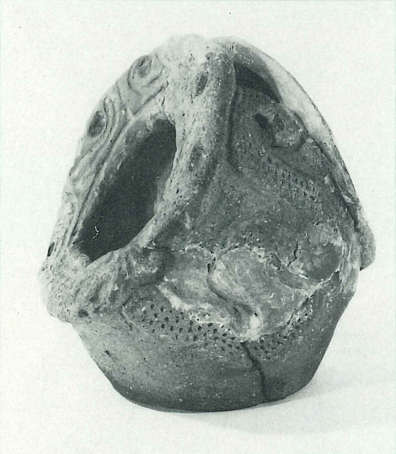
85 小型土器（埦）石神台遺跡
加曽利ＢⅠ式（8.0cm）

86 小型土器（埦）石神台遺跡
加曽利ＢⅡ式（8.0cm）



87 器台　上ノ入Ｂ遺跡
勝坂式期（6.5cm）

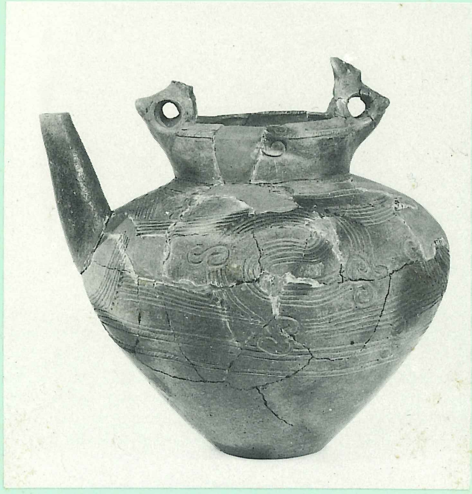
88 器台　西久保出土
勝坂式期（5.0cm）



89 香炉形土器　日向岡遺跡
勝坂式期（18.0cm）

90 有孔鍔付土器　上ノ入Ｂ遺跡
勝坂式期（41.5cm）

91 注口土器 上吉沢出土
加曽利ＢⅠ式（11.9cm）



92 注口土器 王子台遺跡
加曽利ＢⅠ式（26.0cm）

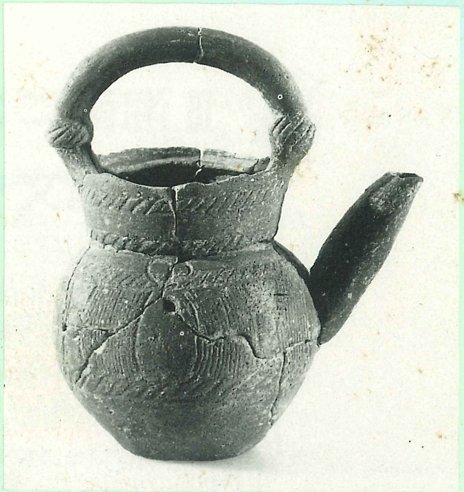
93 注口土器 王子台遺跡
加曽利ＢⅠ式（16.2cm）

94 注口土器 王子台遺跡
加曽利ＢⅠ式（20.0cm）

95 注口土器 王子台遺跡
加曽利ＢⅠ式（13.5cm）

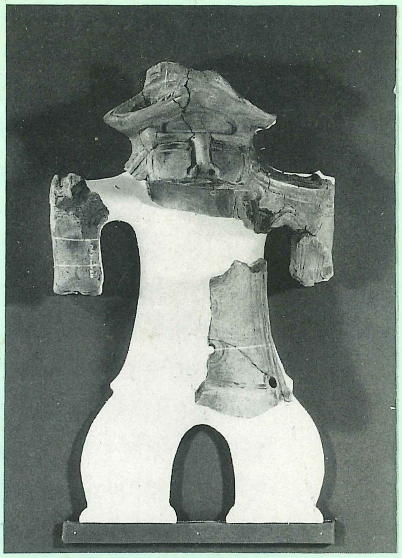
96 注口土器 西富貝塚
加曽利ＢⅠ式（14.0cm）

97 注口土器 大磯小学校遺跡
加曽利ＢⅠ式（17.6cm）



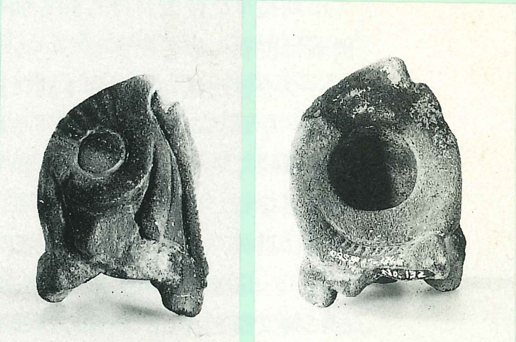
98 注口土器 大磯小学校遺跡
加曽利ＢⅠ式（13.4cm）

99 注口土器 城山遺跡
加曽利ＢⅠ式（10.5cm）

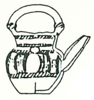


100 土偶 王子台遺跡
加曽利ＢⅠ式期（35.5cm）

把手 城山遺跡 勝坂式期



把手 大磯小学校遺跡 勝坂式期



# Ⅲ 湘南における 縄文中～後期の土器の様相

今回展示した資料は100点で、このうち前期に属する土器は1点、中期に属する土器は33点、後期に属する土器は66点を数える。器種別では、前期深鉢１点、中期深鉢23点、同浅鉢２点、同特殊土器８点、後期深鉢28点、同鉢・浅鉢11点、同小型土器17点、同注口土器９点、同土偶１点となる。ここでは、器種としてもっとも豊富な深鉢を中心に掻い摘んで述べることにしたい。

**【中期の土器群】**

中期初頭の土器では、第一に五領ヶ台式土器をあげることができる。纒った資料は、当然標式遺跡である五領ヶ台貝塚に集中するが、いわゆる一般的に五領ヶ台式と呼ばれている五領ヶ台II式の資料が多い。縄文があまり見られない点で、ある程度の共通性がよみとれるが、特に５と６は鋸歯状の文様で、２と４は刻み目の隆帯の存在で関連が指摘できる。これらの資料は、五領ヶ台II式と考えられる。3は張りだした底部や橋状の把手などから五領ヶ台Ｉ式と考えたい。残念ながら五領ヶ台Ｉ式の完形資料は他にほとんどないため詳細は不明である。断片的な資料は大磯町平遺跡、藤沢市十二天遺跡、同御幣山台地遺跡、二宮町平台遺跡などに見られるし、秦野市山ノ台遺跡にはかなり良好な資料が見られる。そして、多くの場合、諏訪の踊場式や梨久保式、東関東の下小野式など五領ヶ台式と平行もしくは一部先行すると考えられる土器群が伴出するのも特徴の一つと言える。

次の勝坂式は、遺跡の数が増加するのと比例して資料の数もかなり多い。しかし、器が大型化するためか完形品は以外と少ない。７は砂丘遺跡出土の好資料で、三角を基調とした文様区画と三叉文、爪形文など当地方における基本的な資料でもある。新道式の系統をひく、藤内Ｉ式に比定される。同じく11も同時期に比定されるが、こちらは楕円の区画である点が異なる。関東西部では勝坂II式と呼ばれる。８～10はほぼ井戸尻III式に当たり、いわゆる勝坂III式に包括される資料で、特に10は幾分デフォルメされた顔面把手を有する。勝坂Ｉ式に比定される土器群はこの地域では少なく、大磯町平遺跡、二宮町平台遺跡など丘陵平坦部に立地する遺跡に見られるが、その出土量は少ない。また、関東東部霞が浦周辺に分布する、胎土に金雲母を多量に含む阿玉台式もこれらに伴い少量出土する。

中期後半に位置付けられる加曽利Ｅ式、曽利式はこの地域には普遍的に存在し、両者は混在の形で出土している。24は波状や爪形押圧された粘土紐、イカリ状のモチーフなどが見られ曽利Ｉ式に比定できる。17は幾分後出的な感じで曽利II式としたい。なお、この土器には「水鳥」が描かれている。15、18、19、23は口縁部が重弧文や条線で処理され、胴部文様も垂下する波状の粘土紐が見られるなど、前記資料とは異なった様相を呈している。これらは曽利II式と考えられる。13は胴部文様は非常に単純、簡素で新しい様相であるが、器形から見ると古手の感じがする。ここでは、一応曽利III式として扱っておく。12はキャリパー形の器形がくずれ、口縁上部に無文帯を有し、胴部には渦巻状の微隆起と条線が見られる。曽利IV式に比定できよう。一方、加曽利Ｅ式の完形資料は非常に少ない。14はその好資料である。頸部無文帯が消滅したもので、加曽利ＥII式に相当しよう。ただ、加曽利ＥＩ式でも

頸部内に地文が及んでいるものもあるので、注意する必要がある。16、20は連弧文土器と呼ばれる一群である。16は器形もキャリパー形をしていて、口縁上部に円形刺突が見られ、加曽利Ｅ式の系統と考えられる。20は条線や蛇行沈線、全体のイメージから曽利式系統と推定される。ここでは、加曽利ＥⅢ式に比定しておく。22は極めて珍しい資料で、６単位の把手が接近して付けられているため波状口縁になっている。口縁～頸部は無文帯、胴部は隆起線による曲線的区画とそれを埋める撚糸文。土器上部は、後期称名寺式に近く、下半部は加曽利Ｅ式（大木式の影響がかなりある）にといくつかの要素が混じっている土器で、加曽利ＥⅢ式としておく。21もまた類例がない資料である。縄文と沈線の組合せから加曽利Ｅ式系統と考えられるが、口縁部に無文帯はなく、微隆起も見られない点が気にかかる。曽利Ⅳ～Ⅴ式にもこのタイプの土器があるが、非常に稀な存在である。

**【後期の土器群】**

称名寺Ⅰ～安行Ⅱ式までを指すが、当地域においては称名寺Ⅰ、Ⅱ式及び加曽利ＢⅢ式から安行Ⅱ式に至る完形品はほとんどない。特に後者は遺跡も少なく、したがって出土量も当然少ないことに起因していると考えられる。逆に多く見られる土器は、堀ノ内Ⅰ式～加曽利ＢⅠ式である。

27､29､30のように朝顔形に開く深鉢、31、36、39、44のような甕形を呈するもの、単純な35の深鉢など一つの器種の中でかなりバラエティーに富んでいる。文様では沈線を主体に、縄文は区画内に充塡する手法のものが多く、下総方面とは幾分異なっている。堀ノ内Ⅰ式は、現在３段階に分けられているが、25は当地域では大型の部類に属するもので、35は湘南ではあまり類例のない資料であり、懸垂する蛇行沈線が見られ、しかも沈線自体が太い。これらは39の土器などとともに第２段階の資料と言える。一方、堤貝塚の例(29)を代表とする朝顔形深鉢は、第３段階の資料である。ただ、甕形の44は堀ノ内Ⅱ式に該当すると考えられる。

26、28、32、33、34、38の資料は、所謂「紐線文土器」で、口縁上部に刻み目を有する紐線が１ないし２条めぐる。多くの場合、８の字状の貼付が見られる。それ以下は平行沈線と縄文の組合せで文様が構成されるが、堀ノ内Ⅱ式の場合、直線的な沈線区画が多く(34)、三角もしくは長楕円状を呈する。加曽利ＢⅠ式では曲線化が目立ち、口縁上部の小突起状のものが把手(28)に変化してくる。

加曽利ＢⅡ式の資料は、破片としてはかなり存在すると考えられる。この時期のまとまった報告が当地では少ないので、様相は今一つ判然としないのが現状である。その中で、49～51の石神台例をこの時期にしたい。３単位の大きいが厚みのない把手とやや縊れる器形、曲線に富んだ文様構成など今まで見られなかった要素を多く含んでおり、少なくとも一段階新しくなると考えられる。これに伴う浅鉢は、石神台では確認されていないが、王子台例(56・57)もしくはそれに近いものが考えられる。

石神台ではこれらの一群とともに48のように一風変わった土器が出土している。平口縁で、口縁部に刻み目（３列）を有し、以下胴部～底部に至るまで無文である。また、口縁上部に瘤状の貼付が見られる。現段階ではこれを曽谷式に比定したが、資料の増加を待ち、再検討する必要があると考えている。

**【その他】**

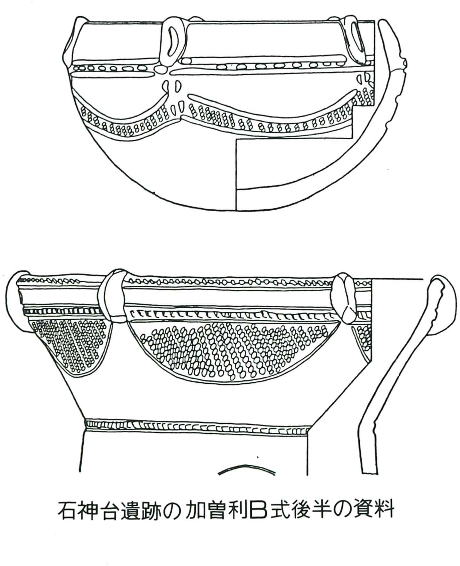
晩期の資料は１点(65)しかないが、これは湘南地方唯一のものであり、周辺地域においては秦野市平沢遺跡に良好な資料が存在する。時期は違うが、平塚市上ノ入Ｂ遺跡の有孔鍔付土器(90)、大磯町西久保の器台(88)など当地の縄文中期文化を探る上でたいへん貴重なものもある。70～86の土器は、配石遺構を有する遺跡から発見されるケースが多い。また、注口土器（91～99）についても同様で、注口部が多量に出土する場合がある。いずれも、大磯町石神台遺跡、平塚市王子台遺跡など加曽利Ｂ式期の遺跡が多い。今後、遺跡の種別（内容）による土器の比較も必要になってくるだろう。

以上、簡単に土器の様相に触れたが、中期には下総方面よりむしろ中部地方の影響が強く現われており、遺跡における曽利式の出土量がそれを物語っている。ただ、全期間同じ状態であったとは考えがたく、各時期の詳細なデーターをもとに再検討する必要があろう。

それが後期堀ノ内Ⅰ、加曽利Ｂ式期にはほとんど逆転したかたちとなる。堀ノ内Ⅰ式では、沈線が主体で、縄文は充填するものが多く、磨消縄文はあまり発達せず、下総方面とは異なる。現在、山梨・長野方面の後期土器が今一つ不鮮明なための結果かも知れないが、加曽利Ｂ式が関東を含め、その西側でもかなり出土していること、比較的近い東海地方の特色をもった土器があまり認められないことなどを合わせ考えると、改めてその強さを再認識させざるを得ない。そのような中で、時折、折衷したような土器やまったく異質な土器が発見されるケースがある。量的には少ないので、余計目に付くが、これらを丹念に調べていけば、興味深い問題を提起することができるかも知れない。

## ★縄文中～後期の土器編年

| | 関東地方（西部） | 関東地方（東部） | 中部地方（八ヶ岳南麓） |
|---|---|---|---|
| 中期 | 五領ヶ台Ⅰ | 下小野 | 九兵衛尾根Ⅰ |
| | 五領ヶ台Ⅱ | | 九兵衛尾根Ⅱ |
| | | | 狢沢 |
| | 勝坂1 | 阿玉台Ⅰa | 新道 |
| | | 阿玉台Ⅰb | 藤内Ⅰ |
| | 勝坂2 | 阿玉台Ⅱ | 藤内Ⅱ |
| | | 阿玉台Ⅲ | 井戸尻Ⅰ |
| | 勝坂3 | 阿玉台Ⅳ | 井戸尻Ⅱ |
| | | | 井戸尻Ⅲ |
| | 加曽利ＥⅠ | | 曽利Ⅰ |
| | 加曽利ＥⅡ | | 曽利Ⅱ |
| | 加曽利ＥⅢ | | 曽利Ⅲ |
| | 加曽利ＥⅣ | | 曽利Ⅳ |
| | | | 曽利Ⅴ |
| 後期 | 称名寺 | | 大安寺 |
| | 堀ノ内Ⅰ | | |
| | 堀ノ内Ⅱ | | |
| | 加曽利ＢⅠ | | |
| | 加曽利ＢⅡ | | |
| | 加曽利ＢⅢ | | |
| | 曽谷 | | |
| | 安行Ⅰ | | |
| | 安行Ⅱ | | |



石神台遺跡の加曽利Ｂ式後半の資料

## ◆参 考 文 献


江坂輝弥他　1970　「平塚市広川五領ヶ台貝塚調査報告」平塚市文化財調査報告書　第９集

鈴木一男　1979　「平遺跡」大磯町文化財調査報告書　第18集

小島弘義　1987　「四之宮諏訪前Ａ」平塚市埋蔵文化財調査報告書　第４集

西村正衛　1973　「新版考古学講座」３

藤村東男　1984　「縄文土器の知識II」中・後・晩期

今村啓爾　1972　「宮の原貝塚」武蔵野美術大学考古学研究会

日野一郎　1972　「平台遺跡とその出土遺物」同調査会

山下正博・池谷信之　1981　「山之台遺跡出土の土器と石器」小田原考古学研究会会報　10

戸田哲也　1971　「勝坂式土器編年に関する試論」小田原考古学研究会会報　４

森嶋　稔　1980　「編年一中部高地における型式一」千曲川水系古代文化研究所

中村龍雄　1980　「縄文土器集成」諏訪湖周辺考古学（2）

山口　明　1978　「縄文時代中期初頭土器群の分類と編年」駿台史学　43

鈴木保彦他　1978　「神奈川県における縄文時代中期後半土器編年試案」神奈川考古　４

武藤勇六　1981　「曽利」富士見町教育委員会

近藤英夫　1989　「真田大原遺跡発掘調査概報」真田大原遺跡調査団

常木　晃　1989　「真田大原遺跡発掘調査概報」東海大学校地内遺跡調査団

富永富士雄・大村浩司　1988　「下寺尾西方Ａ遺跡」茅ヶ崎市埋蔵文化財調査報告　１

鈴木一男　1976　「大磯小学校遺跡」大磯町埋蔵文化財調査報告書　第１集

岡本　勇　1980　「茅ヶ崎市史」３

杉山博久　1985　「秦野市史」別巻　考古編

服部清道・寺田兼方　1964　「西富貝塚発掘調査報告」藤沢市文化財調査報告書 １

鈴木徳雄　1984　「関東西部における縄文後期前半の土器様相」東海大学文化部連合会考古学研究会

石井　寛　1982　「シンポジウム堀ノ内式土器資料集」市立市川考古博物館

鈴木保彦　1972　「東正院遺跡調査報告」神奈川県教育委員会

鈴木保彦　1977　「下北原遺跡」神奈川県埋蔵文化財調査報告　14

鈴木道之助他　1987　「縄文時代(1)」房総考古学ライブラリー　２

赤星直忠・岡本　勇　1979　「神奈川県史一考古資料」資料編20

寺田兼方　1972　「藤沢市史」第４巻　通史編

寺田兼方　1970　「藤沢市史」第１巻　資料編

岡本　勇　1981　「堤貝塚」茅ヶ崎市文化財資料集　第８集

高山　純　1974　「大磯・石神台配石遺構発掘調査報告書」大磯町文化財調査報告　第14集

## ◆出品目録

| No. | 器　　種 | 型式名 | 出土遺跡名 | 所蔵者・保管者（敬称略） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 深　　鉢 | 黒浜式 | 茅ヶ崎市西方Ａ遺跡 | 茅ヶ崎市教育委員会 |
| 2 | 深　　鉢 | 五領ヶ台II式 | 平塚市五領ヶ台貝塚 | 平塚市博物館 |
| 3 | 深　　鉢 | 五領ヶ台I式 | 平塚市五領ヶ台貝塚 | 平塚市博物館 |
| 4 | 深　　鉢 | 五領ヶ台II式 | 平塚市五領ヶ台貝塚 | 平塚市博物館 |
| 5 | 深　　鉢 | 五領ヶ台II式 | 平塚市五領ヶ台貝塚 | 平塚市博物館 |
| 6 | 深　　鉢 | 五領ヶ台II式 | 平塚市万田熊ノ台遺跡 | 万田熊ノ台遺跡発掘調査団 |
| 7 | 深　　鉢 | 勝坂II式 | 平塚市諏訪前Ａ遺跡 | 平塚市教育委員会 |
| 8 | 深　　鉢 | 勝坂III式 | 平塚市王子台遺跡(伝) | 東海大学校地内遺跡調査委員会 |
| 9 | 深　　鉢 | 勝坂III式 | 平塚市王子台遺跡(伝) | 東海大学校地内遺跡調査委員会 |
| 10 | 深　　鉢 | 勝坂III式 | 茅ヶ崎市芹沢大谷遺跡 | 茅ヶ崎市教育委員会 |
| 11 | 深　　鉢 | 勝坂II式 | 大磯町城山遺跡 | 大磯町郷土資料館 |
| 12 | 深　　鉢 | 曽利IV式 | 平塚市上ノ入Ｂ遺跡 | 平塚市博物館 |
| 13 | 深　　鉢 | 曽利III式 | 平塚市上ノ入Ｂ遺跡 | 平塚市博物館 |
| 14 | 深　　鉢 | 加曽利ＥII式 | 平塚市上ノ入Ｂ遺跡 | 平塚市博物館 |
| 15 | 深　　鉢 | 曽利II式 | 平塚市上ノ入Ｂ遺跡 | 平塚市博物館 |
| 16 | 深　　鉢 | 加曽利ＥIII式 | 平塚市上ノ入Ｂ遺跡 | 平塚市博物館 |
| 17 | 深　　鉢 | 曽利II式 | 平塚市上ノ入Ｂ遺跡 | 平塚市博物館 |
| 18 | 深　　鉢 | 曽利II式 | 平塚市上ノ入Ｂ遺跡 | 平塚市博物館 |
| 19 | 深　　鉢 | 曽利II式 | 平塚市真田大原遺跡 | 東海大学校地内遺跡調査委員会 |
| 20 | 深　　鉢 | 加曽利ＥIII式 | 平塚市真田大原遺跡 | 東海大学校地内遺跡調査委員会 |
| 21 | 深　　鉢 | 加曽利ＥIV式 | 平塚市王子台遺跡 | 東海大学校地内遺跡調査委員会 |
| 22 | 深　　鉢 | 加曽利ＥIII式 | 平塚市真田大原遺跡 | 東海大学校地内遺跡調査委員会 |
| 23 | 深　　鉢 | 曽利II式 | 平塚市真田大原遺跡 | 東海大学校地内遺跡調査委員会 |
| 24 | 深　　鉢 | 曽利I式 | 大磯町平遺跡 | 大磯町郷土資料館 |
| 25 | 深　　鉢 | 堀ノ内I式 | 平塚市上ノ入Ｂ遺跡 | 平塚市博物館 |
| 26 | 深　　鉢 | 加曽利ＢI式 | 平塚市上ノ入Ｂ遺跡 | 平塚市博物館 |
| 27 | 深　　鉢 | 堀ノ内I式 | 平塚市上ノ入Ｂ遺跡 | 平塚市博物館 |
| 28 | 深　　鉢 | 加曽利ＢI式 | 平塚市上ノ入Ｂ遺跡 | 平塚市博物館 |
| 29 | 深　　鉢 | 堀ノ内I式 | 茅ヶ崎市堤貝塚 | 茅ヶ崎市教育委員会 |
| 30 | 深　　鉢 | 堀ノ内I式 | 茅ヶ崎市堤貝塚 | 茅ヶ崎市教育委員会 |
| 31 | 深　　鉢 | 堀ノ内I式 | 茅ヶ崎市堤貝塚 | 茅ヶ崎市教育委員会 |
| 32 | 深　　鉢 | 加曽利ＢI式 | 茅ヶ崎市堤貝塚 | 茅ヶ崎市教育委員会 |
| 33 | 深　　鉢 | 加曽利ＢI式 | 茅ヶ崎市行谷遺跡 | 茅ヶ崎市教育委員会 |
| 34 | 深　　鉢 | 堀ノ内II式 | 茅ヶ崎市行谷遺跡 | 茅ヶ崎市教育委員会 |
| 35 | 深　　鉢 | 堀ノ内I式 | 茅ヶ崎市行谷遺跡 | 茅ヶ崎市教育委員会 |
| 36 | 深　　鉢 | 堀ノ内I式 | 茅ヶ崎市行谷遺跡 | 茅ヶ崎市教育委員会 |
| 37 | 深　　鉢 | 加曽利ＢI式 | 茅ヶ崎市行谷遺跡 | 茅ヶ崎市教育委員会 |
| 38 | 深　　鉢 | 加曽利ＢI式 | 茅ヶ崎市行谷遺跡 | 茅ヶ崎市教育委員会 |
| 39 | 深　　鉢 | 堀ノ内I式 | 茅ヶ崎市行谷遺跡 | 茅ヶ崎市教育委員会 |
| 40 | 深　　鉢 | 堀ノ内II式 | 藤沢市西富貝塚 | 藤沢市教育委員会 |
| 41 | 深　　鉢 | 加曽利ＢI式 | 藤沢市西富貝塚 | 藤沢市教育委員会 |
| 42 | 深　　鉢 | 加曽利ＢI式 | 藤沢市西富貝塚 | 藤沢市教育委員会 |
| 43 | 深　　鉢 | 加曽利ＢI式 | 藤沢市西富貝塚 | 藤沢市教育委員会 |
| 44 | 深　　鉢 | 堀ノ内II式 | 藤沢市西富貝塚 | 藤沢市教育委員会 |
| 45 | 深　　鉢 | 加曽利ＢI式 | 藤沢市西富貝塚 | 藤沢市教育委員会 |
| 46 | 深　　鉢 | 加曽利ＢI式 | 藤沢市西富貝塚 | 藤沢市教育委員会 |
| 47 | 深　　鉢 | 加曽利ＢI式 | 藤沢市西富貝塚 | 藤沢市教育委員会 |
| 48 | 深　　鉢 | 曽谷式 | 大磯町石神台遺跡 | 大磯町郷土資料館 |
| 49 | 深　　鉢 | 加曽利ＢII式 | 大磯町石神台遺跡 | 大磯町郷土資料館 |
| 50 | 深　　鉢 | 加曽利ＢII式 | 大磯町石神台遺跡 | 大磯町郷土資料館 |

| No. | 器　　種 | 型 式 名 | 出 土 遺 跡 名 | 所蔵者・保管者（敬称略） |
|---|---|---|---|---|
| 51 | 深　　鉢 | 加曽利BⅡ式 | 大磯町石神台遺跡 | 大磯町郷土資料館 |
| 52 | 深　　鉢 | 加曽利BⅠ式 | 大磯町大磯小学校遺跡 | 大磯町郷土資料館 |
| 53 | 浅　　鉢 | 五領ヶ台Ⅱ式 | 平塚市五領ヶ台貝塚 | 平塚市博物館 |
| 54 | 浅　　鉢 | 曽利Ⅲ式 | 平塚市上ノ入B遺跡 | 平塚市博物館 |
| 55 | 浅　　鉢 | 加曽利BⅠ式 | 平塚市王子台遺跡 | 東海大学校地内遺跡調査委員会 |
| 56 | 浅　　鉢 | 加曽利BⅡ式 | 平塚市王子台遺跡 | 東海大学校地内遺跡調査委員会 |
| 57 | 浅　　鉢 | 加曽利BⅡ式 | 平塚市王子台遺跡 | 東海大学校地内遺跡調査委員会 |
| 58 | 浅　　鉢 | 加曽利BⅠ式 | 藤沢市西富貝塚 | 藤沢市教育委員会 |
| 59 | 鉢 | 堀ノ内Ⅱ式 | 茅ヶ崎市堤貝塚 | 茅ヶ崎市教育委員会 |
| 60 | 鉢 | 加曽利BⅠ式 | 藤沢市西富貝塚 | 藤沢市教育委員会 |
| 61 | 鉢 | 堀ノ内Ⅱ式 | 藤沢市西富貝塚 | 藤沢市教育委員会 |
| 62 | 鉢 | 堀ノ内Ⅱ式 | 藤沢市西富貝塚 | 藤沢市教育委員会 |
| 63 | 鉢 | 堀ノ内Ⅱ式 | 藤沢市西富貝塚 | 藤沢市教育委員会 |
| 64 | 鉢 | 堀ノ内Ⅱ式 | 藤沢市西富貝塚 | 藤沢市教育委員会 |
| 65 | 鉢 | 安行Ⅲc式 | 平塚市上ノ入B遺跡 | 平塚市博物館 |
| 66 | 小型土器（深鉢） | 勝坂Ⅱ式 | 平塚市五領ヶ台貝塚 | 平塚市博物館 |
| 67 | 小型土器（深鉢） | 勝坂Ⅲ式 | 平塚市上ノ入B遺跡 | 平塚市博物館 |
| 68 | 小型土器（深鉢） | 加曽利EⅠ式 | 平塚市真田大原遺跡 | 東海大学校地内遺跡調査委員会 |
| 69 | 小型土器（深鉢） | 中　　期 | 大磯町大磯小学校遺跡 | 大磯町郷土資料館 |
| 70 | 小型土器（埦） | 加曽利BⅠ式 | 平塚市上ノ入B遺跡 | 平塚市博物館 |
| 71 | 小型土器（鉢） | 加曽利BⅠ式 | 平塚市王子台遺跡 | 東海大学校地内遺跡調査委員会 |
| 72 | 小型土器（鉢） | 加曽利BⅠ式 | 平塚市王子台遺跡 | 東海大学校地内遺跡調査委員会 |
| 73 | 小型土器（鉢） | 加曽利BⅠ式 | 平塚市王子台遺跡 | 東海大学校地内遺跡調査委員会 |
| 74 | 小型土器（鉢） | 加曽利BⅠ式 | 平塚市王子台遺跡 | 東海大学校地内遺跡調査委員会 |
| 75 | 小型土器（深鉢） | 加曽利BⅠ式 | 平塚市王子台遺跡 | 東海大学校地内遺跡調査委員会 |
| 76 | 小型土器（壺） | 加曽利BⅠ式 | 藤沢市西富貝塚 | 藤沢市教育委員会 |
| 77 | 小型土器（埦） | 加曽利BⅠ式 | 藤沢市西富貝塚 | 藤沢市教育委員会 |
| 78 | 小型土器（埦） | 加曽利BⅠ式 | 茅ヶ崎市堤貝塚 | 茅ヶ崎市教育委員会 |
| 79 | 小型土器（壺） | 加曽利BⅠ式 | 茅ヶ崎市行谷遺跡 | 茅ヶ崎市教育委員会 |
| 80 | 小型土器（鉢） | 加曽利BⅠ式 | 茅ヶ崎市行谷遺跡 | 茅ヶ崎市教育委員会 |
| 81 | 小型土器（鉢） | 加曽利BⅠ式 | 茅ヶ崎市行谷遺跡 | 茅ヶ崎市教育委員会 |
| 82 | 小型土器（鉢） | 加曽利BⅠ式 | 大磯町石神台遺跡 | 大磯町郷土資料館 |
| 83 | 小型土器（鉢） | 加曽利BⅡ式 | 大磯町石神台遺跡 | 大磯町郷土資料館 |
| 84 | 小型土器（深鉢） | 加曽利BⅠ式 | 大磯町石神台遺跡 | 大磯町郷土資料館 |
| 85 | 小型土器（埦） | 加曽利BⅠ式 | 大磯町石神台遺跡 | 大磯町郷土資料館 |
| 86 | 小型土器（埦） | 加曽利BⅡ式 | 大磯町石神台遺跡 | 大磯町郷土資料館 |
| 87 | 器　　台 | 勝坂式期 | 平塚市上ノ入B遺跡 | 平塚市博物館 |
| 88 | 器　　台 | 勝坂式期 | 大磯町西久保出土 | 大磯町郷土資料館 |
| 89 | 香炉形土器 | 勝坂式期 | 平塚市日向岡遺跡 | 平塚市博物館 |
| 90 | 有孔鍔付土器 | 勝坂式期 | 平塚市上ノ入B遺跡 | 平塚市博物館 |
| 91 | 注口土器 | 加曽利BⅠ式 | 平塚市上吉沢出土 | 平塚市博物館 |
| 92 | 注口土器 | 加曽利BⅠ式 | 平塚市王子台遺跡 | 東海大学校地内遺跡調査委員会 |
| 93 | 注口土器 | 加曽利BⅠ式 | 平塚市王子台遺跡 | 東海大学校地内遺跡調査委員会 |
| 94 | 注口土器 | 加曽利BⅠ式 | 平塚市王子台遺跡 | 東海大学校地内遺跡調査委員会 |
| 95 | 注口土器 | 加曽利BⅠ式 | 平塚市王子台遺跡 | 東海大学校地内遺跡調査委員会 |
| 96 | 注口土器 | 加曽利BⅠ式 | 藤沢市西富貝塚 | 藤沢市教育委員会 |
| 97 | 注口土器 | 加曽利BⅠ式 | 大磯町大磯小学校遺跡 | 大磯町郷土資料館 |
| 98 | 注口土器 | 加曽利BⅠ式 | 大磯町大磯小学校遺跡 | 大磯町郷土資料館 |
| 99 | 注口土器 | 加曽利BⅠ式 | 大磯町城山遺跡 | 大磯町郷土資料館 |
| 100 | 土　　偶 | 加曽利BⅠ式期 | 平塚市王子台遺跡 | 東海大学校地内遺跡調査委員会 |

## お　わ　り　に

今回は、未だ謎に包まれている縄文時代の様子を湘南という一つの地域を区切って、しかも限られた時期の土器という一側面から探って見ようと企画いたしました。

同時に開館後はじめての考古分野の展示ということで、多少の力みもありましたが、力不足の感は否めず、地域における縄文文化の解明には程遠い感じがしました。

これを補う意味でも、今後は資料の充実と研究に力を入れていきたいと考えています。

企画展開催にあたっては、多くの方々のご協力、ご指導を賜りました。また、未発表資料の公開につきましても多大なご配慮を賜りました。厚くお礼申し上げます。

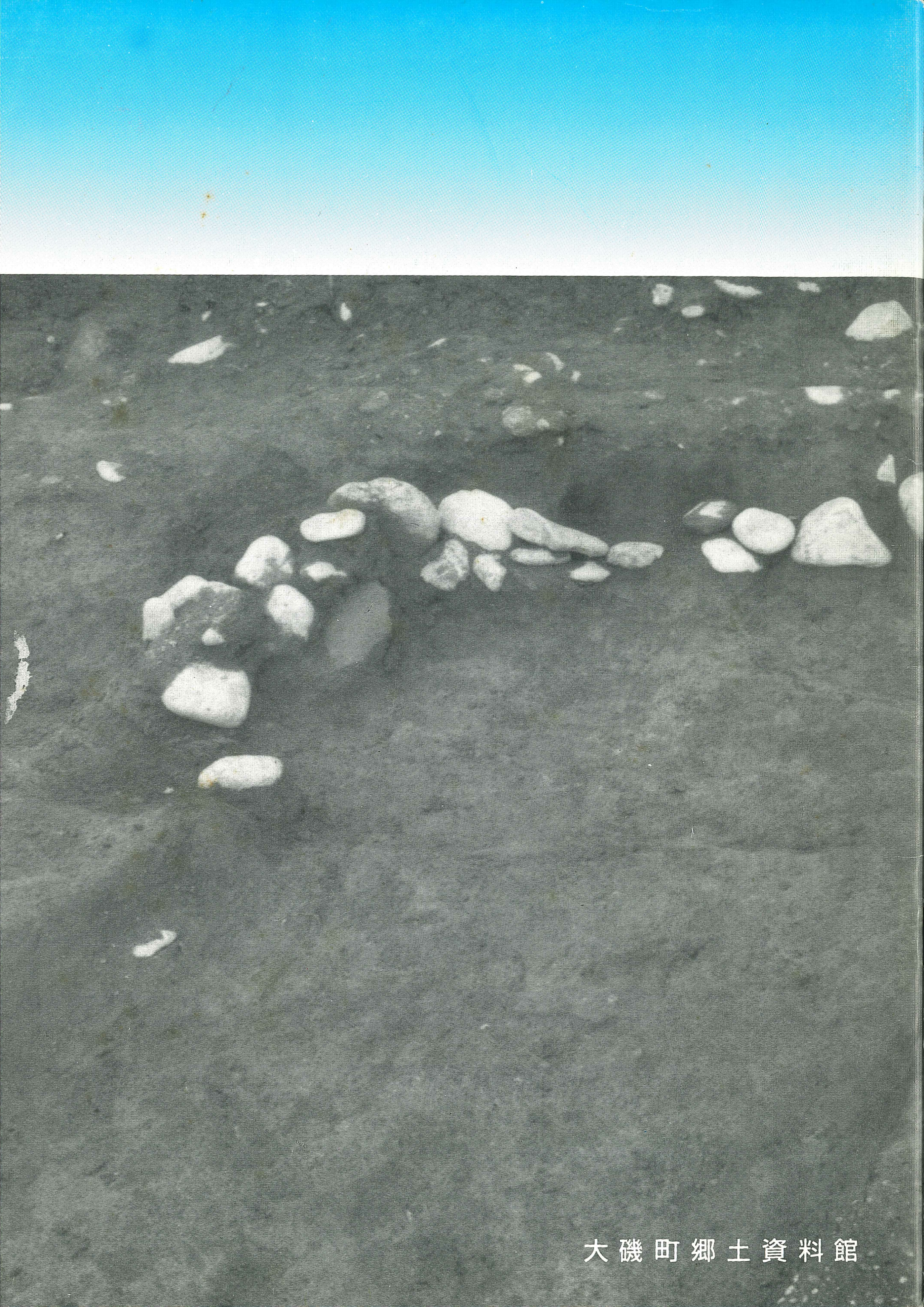
協力者・協力機関（敬称略）

明石　新・秋田かな子・安藤文一・大村浩司・桑折礼子
小島弘義・近藤英夫・杉山幾一・関　恒久・田尾誠敏・
常木　晃・寺井朗雄・富永富士雄・中嶋　登

茅ヶ崎市教育委員会・茅ヶ崎市文化資料館・茅ヶ崎市遺跡調査会
東海大学校地内遺跡調査委員会・平塚市教育委員会
平塚市博物館・平塚市遺跡調査会・藤沢市教育委員会
藤沢市博物館準備室・文教大学

企画展担当………鈴木一男・國見　徹
図録執筆………鈴木一男
写真撮影………國見　徹
展示協力………荒川ヨリ子・外川敏子
図録編集………鈴木一男・國見　徹

「冬季企画展」
～土器が語る縄文時代の湘南～
会　期　1990．3．6～4．8
発　行　大磯町郷土資料館
〒255　中郡大磯町西小磯460
☎0463-61-4700
印　刷　㈱カメイ写真
1990.3.6
1991.1　第2刷　C005



大磯町郷土資料館